



ユーザ インターフェイス コマンド

この章は、次の項で構成されています。

- [configure](#) (2 ページ)
- [disable](#) (3 ページ)
- [do](#) (4 ページ)
- [enable](#) (5 ページ)
- [end](#) (6 ページ)
- [exit \(Configuration\)](#) (7 ページ)
- [exit \(EXEC\)](#) (8 ページ)
- [help](#) (9 ページ)
- [history](#) (10 ページ)
- [history size](#) (11 ページ)
- [login](#) (12 ページ)
- [terminal datadump](#) (13 ページ)
- [terminal history](#) (14 ページ)
- [terminal history size](#) (15 ページ)
- [terminal prompt](#) (16 ページ)
- [terminal width](#) (17 ページ)
- [show banner](#) (18 ページ)
- [show history](#) (19 ページ)
- [show privilege](#) (20 ページ)

configure

グローバル コンフィギュレーション モードを開始するには、**configure** 特権 EXEC モード コマンドを使用します。

構文

configure [*terminal*]

パラメータ

terminal : (オプション) **terminal** キーワードの有無にかかわらず、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

コマンドモード

特権 EXEC モード

例

次に、グローバル コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switchxxxxxx# configure  
switchxxxxxx (config) #
```

disable

特権 EXEC モードを終了し、ユーザ EXEC モードに戻るには、**disable** 特権 EXEC モード コマンドを使用します。

構文

disable [*privilege-level*]

パラメータ

privilege-level : (オプション) 特権レベルを指定した特権レベルに下げます。特権レベルを空白のままにすると、レベルは最小の特権レベルに下げられます。

デフォルト設定

デフォルトの特権レベルは 15 です。

コマンドモード

特権 EXEC モード

例

次の例では、ユーザをユーザ レベル 1 に戻しています。

```
switchxxxxxx# disable 1  
switchxxxxxx#
```

do

グローバル コンフィギュレーション モードまたは任意のコンフィギュレーション サブモードから EXEC レベル コマンドを実行するには、**do** コマンドを使用します。

構文

do *command*

パラメータ

command : 実行する EXEC レベル コマンドを指定します。

コマンドモード

すべてのコンフィギュレーション モード

例

次の例では、グローバル コンフィギュレーション モードから **show vlan** 特権 EXEC モード コマンドを実行しています。

```
switchxxxxxx(config)# do show vlan
```

Vlan	Name	Ports	Type	Authorization
----	----	-----	----	-----
1	1	gi1/0/1-4, Po1, Po2	other	必須
2	2	gi1/0/1	dynamicGvrp	必須
10	v0010	gi1/0/1	permanent	不要
11	V0011	gi1/0/1、 gi1/0/3	permanent	必須
20	20	gi1/0/1	permanent	必須
30	30	gi1/0/1、 gi1/0/3	permanent	必須
31	31	gi1/0/1	permanent	必須
91	91	gi1/0/1、 gi1/0/4	permanent	必須
4093	guest-vlan	gi1/0/1、 gi1/0/3	permanent	ゲスト

```
switchxxxxxx(config)#
```

enable

特権 EXEC モードを開始するには、**enable** ユーザ EXEC モード コマンドを使用します。

構文

enable [*privilege-level*]

パラメータ

privilege-level : (オプション) システムを開始する特権レベルを指定します (範囲 : 1、7、15)。

デフォルト設定

デフォルトの特権レベルは 15 です。

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

例

次に、特権レベル 7 に入る例を示します。

```
switchxxxxxx# enable 7  
enter password:*****  
switchxxxxxx# Accepted
```

次に、特権レベル 15 に入る例を示します。

```
switchxxxxxx# enable  
enter password:*****  
switchxxxxxx# Accepted
```

end

現在のコンフィギュレーションセッションを終了して、特権EXECモードに戻るには、**end** コマンドを使用します。

構文

end

パラメータ

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

なし

コマンドモード

すべてのコンフィギュレーションモード

例

次の例では、グローバルコンフィギュレーションモードセッションを終了し、特権EXECモードに戻っています。

```
switchxxxxxx(config)# end  
switchxxxxxx#
```

exit (Configuration)

任意のモードを終了し、ユーザを CLI モード階層内の次に高いモードにするには、**exit** コマンドを使用します。

構文

exit

パラメータ

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

なし

コマンドモード

すべてのコンフィギュレーションモード

例

次の例では、コンフィギュレーションモードをインターフェイスコンフィギュレーションモードから特権 EXEC モードに変更しています。

```
switchxxxxxx(config-if)# exit  
switchxxxxxx(config)# exit
```

exit (EXEC)

デバイスからログオフしてアクティブなターミナルセッションを終了するには、**exit** ユーザ EXEC モード コマンドを使用します。

構文

exit

パラメータ

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

例

次の例では、アクティブなターミナルセッションを終了しています。

```
switchxxxxxx# exit
```

help

ヘルプ システムの簡単な説明を表示するには、**help** コマンドを使用します。

構文

help

パラメータ

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

なし

コマンドモード

すべてのコンフィギュレーション モード

例

次の例では、ヘルプ システムの説明を表示しています。

```
switchxxxxxx# help
```

```
Help may be requested at any point in a command by entering a question mark '?'. If nothing matches the currently entered incomplete command, the help list is empty. This indicates that there is no command matching the input as it currently appears. If the request is within a command, press the Backspace key and erase the entered characters to a point where the request results in a match.
```

```
Help is provided when:
```

1. There is a valid command and a help request is made for entering a parameter or argument (e.g. 'show ?'). All possible parameters or arguments for the entered command are then displayed.
2. An abbreviated argument is entered and a help request is made for arguments matching the input (e.g. 'show pr?').

history

入力したコマンドの保存を有効にするには、**history** ライン コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。このコマンドを無効にするには、このコマンドの**no**形式を使用します。

構文

history

no history

パラメータ

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

有効

コマンドモード

ライン コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

このコマンドにより、ユーザが指定された行に入力したコマンドを保存できるようになります。以前の行に戻るには、上向き矢印または下向き矢印を使用します。

コンソール、Telnet、または SSH を介してユーザが次回ログインするときから有効になります。

次に、関連するコマンドを示します。

- [terminal history size \(15 ページ\)](#) ユーザ EXEC モード コマンドは、現在のターミナルセッションの間このコマンドを有効または無効にする場合に使用します。

[history size \(11 ページ\)](#) ライン コンフィギュレーション モード コマンドは、コマンド履歴バッファのサイズを設定する場合に使用します。

例

次の例では、Telnet に対してコマンドを有効にしています。

```
switchxxxxxx(config)# line telnet  
switchxxxxxx(config-line)# history
```

history size

特定の行について履歴バッファに保存されるユーザコマンドの最大数を変更するには、**history size** ライン コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。コマンド履歴バッファ サイズをデフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

history size *number-of-commands*

no history size

パラメータ

number-of-commands : システムの履歴バッファに記録されるコマンドの数を指定します。

デフォルト設定

デフォルトのコマンド履歴バッファ サイズは、コマンド 10 個です。

コマンドモード

ライン コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

このコマンドは、特定の行に対してコマンド履歴バッファサイズを設定します。コンソール、Telnet、または SSH を介してユーザが次回ログインするときから有効になります。

terminal history size ユーザ EXEC モード コマンドは、現在のターミナルセッションのコマンド履歴バッファ サイズを設定する場合に使用します。

割り当てたコマンド履歴バッファは、端末ユーザ別に用意され、共有バッファから取得されません。共有バッファに使用できる十分な領域がない場合は、コマンド履歴バッファ サイズをデフォルトのサイズよりも大きくすることはできません。

例

次の例では、Telnet のコマンド履歴バッファ サイズをエントリ 100 個に変更しています。

```
switchxxxxxx(config)# line telnet
switchxxxxxx(config-line)# history size 100
```

login

ログインするユーザの変更を有効にするには、**login** ユーザ EXEC モード コマンドを使用します。このコマンドでログインした場合、ユーザはユーザ名/パスワードの入力を求められます。

構文

login

パラメータ

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

例

次の例では、特権 EXEC モードを開始し、必要なユーザ名 'bob' でログインしています。

```
switchxxxxxx# login
User Name:bob
Password:*****
switchxxxxxx#
```

terminal datadump

ユーザに入力を求めずに show コマンドのすべての出力をダンプできるようにするには、**terminal datadump** ユーザ EXEC モード コマンドを使用します。ダンプを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

terminal datadump

terminal no datadump

パラメータ

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

出力時に、ダンプは無効になり、出力は 24 行ごとに一時停止します。

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

使用上のガイドライン

デフォルトでは、出力に含まれる行が 24 行を超える場合、**More** プロンプトが表示されます。Enter キーを押すと次の行が表示され、**スペースキー**を押すと次の出力画面が表示されます。

terminal datadump コマンドにより、一時停止をなくして、show コマンドを入力した直後にすべての出力をダンプできます。

幅に制限はなく、端末に出力される行の幅は端末自体に基づきます。

このコマンドは、現在のセッションのみを対象とします。

例

次の例では、show コマンドを入力した直後にすべての出力をダンプしています。

```
switchxxxxxx# terminal datadump
```

terminal history

現在のターミナルセッションの間コマンド履歴機能を有効にするには（つまり、実行コンフィギュレーションファイルに保存されません）、**terminal history** ユーザ EXEC モード コマンドを使用します。このコマンドを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

terminal history

terminal no history

パラメータ

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

すべての端末セッションのデフォルト設定は、**history** (10 ページ) ライン コンフィギュレーション モード コマンドによって定義されます。

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

使用上のガイドライン

このコマンドは、現在のセッションの間コマンド履歴を有効にします。デフォルトは、**history** (10 ページ) ライン コンフィギュレーション モード コマンドによって決まります。

このコマンドはすぐに有効になります。

例

次の例では、現在のターミナルセッションの間コマンド履歴機能を無効にしています。

```
switchxxxxxxx# terminal no history
```

terminal history size

現在のターミナルセッションのコマンド履歴バッファサイズを変更するには（つまり、実行コンフィギュレーションファイルに保存されない）、**terminal history size** ユーザ EXEC モードコマンドを使用します。また、コマンド履歴バッファサイズをデフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

terminal history size *number-of-commands*

terminal no history size

パラメータ

number-of-commands : システムの履歴バッファに保持されるコマンドの数を指定します。（範囲 : 10 ~ 206）

デフォルト設定

すべての端末セッションのデフォルト設定は、**history size**（11 ページ）ライン コンフィギュレーション モード コマンドによって定義されます。

コマンド モード

ユーザ EXEC モード

使用上のガイドライン

terminal history size EXEC コマンドは、現在のターミナルセッションのコマンド履歴バッファサイズを変更する場合に使用します。**history**（10 ページ）ライン コンフィギュレーション モード コマンドは、デフォルトの履歴バッファサイズを変更する場合に使用します。

すべてのバッファにおけるコマンドの最大数は 207 です。

例

次の例では、現在のターミナルセッションのコマンド履歴バッファサイズをコマンド 20 個に設定しています。

```
switchxxxxxx# terminal history size 20
```

terminal prompt

端末プロンプトを有効にするには、**terminal prompt** ユーザ EXEC モード コマンドを使用します。端末プロンプトを無効にするには、**terminal no prompt** コマンドを使用します。

コマンドは、セッションごとであり、設定データベースには保存されません。

構文

terminal prompt

terminal no prompt

パラメータ

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト設定

デフォルト設定はプロンプト有効です。

コマンドモード

特権 EXEC モード

例

次の例では、端末プロンプトを無効にしています。

```
switchxxxxxxx# terminal no prompt
```

terminal width

CLIセッションへのecho入力の出力幅を決定するには、**terminal width** ユーザ EXEC モード コマンドを使用します。デフォルトに戻すには、**terminal no width** を使用します。

コマンドは、セッションごとであり、設定データベースには保存されません。

構文

terminal width *number-of-characters*

terminal no width

パラメータ

number-of-characters : CLI コマンドの echo 出力およびコンフィギュレーションファイルに表示する文字の数を指定します。'0' を指定すると、画面の行の文字数が無限になります。（範囲 : 0、70 ~ 512）

デフォルト設定

デフォルトの文字数は 77 です。

コマンドモード

特権 EXEC モード

例

次の例では、端末幅を 100 文字に設定しています。

```
switchxxxxxxx# terminal width 100
```

show banner

定義されているバナーを表示するには、ユーザ EXEC モードで **show banner** コマンドを使用します。

構文

show banner login

show banner exec

パラメータ

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

例

```
switchxxxxxxx# show banner login
```

```
-----  
Banner: Login  
Line SSH: Enabled  
Line Telnet: Enabled  
Line Console: Enabled  
switchxxxxxxx# show banner exec  
Banner: EXEC  
Line SSH: Enabled  
Line Telnet: Enabled  
Line Console: Enabled  
You have logged on
```

show history

現在のセッションで入力されたコマンドをリストするには、**show history** ユーザ EXEC モードコマンドを使用します。

構文

show history

パラメータ

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

使用上のガイドライン

バッファには、実行されたコマンドと実行されていないコマンドが含まれています。

コマンドは、最初のコマンドから最新のコマンドまでリストされます。

コンフィギュレーション モードを開始する場合やコンフィギュレーション モードから戻る場合、バッファはそのままの状態を保ちます。

例

次に、現在の特権 EXEC モードの間に入力されたすべてのコマンドを表示する例を示します。

```
switchxxxxxxx# show version
SW version 3.131 (date 23-Jul-2005 time 17:34:19)
HW version 1.0.0
switchxxxxxxx# show clock
15:29:03 Jun 17 2005
switchxxxxxxx# show history
show version
show clock
show history
3 commands were logged (buffer size is 10)
```

show privilege

現在の特権レベルを表示するには、**show privilege** ユーザ EXEC モード コマンドを使用します。

構文

show privilege

パラメータ

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

例

次に、ログオン中のユーザの特権レベルを表示する例を示します。

```
switchxxxxxx# show privilege  
Current privilege level is 15
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。